

平成28年3月15日

第1回東北大学病院NICUを卒業した子どもたちと親の会

平成28年2月7日（日）に“東北大学病院NICUを卒業した子どもたちと親の会”と称し、同窓会が行われました。会場には、ご家族がお話できるスペースとともに子どもたちが遊べるおもちゃや遊具を用意しました。



受付を終えると、子どもたちはボールプールや滑り台などのおもちゃに一目散。看護師や栄養士を目指す学生さんも託ボランティアとして参加し大活躍でした。



まずは、参加して下さったお子様とご家族の自己紹介からスタートです。こどもたちが最近ハマっていることも発表してもらいました。

『クイックルワイパーです。おもちゃには全く興味をしめしません。』

『嵐です。双子の娘たちは家では櫻井さん、相葉さんと呼び合っています。』

など、会場からは爆笑の声も多々。初対面のご家族が多かったのですが、ユーモアあふれる自己紹介に、最初から和やかな雰囲気になりました。

また、この会には、NICUの看護師、医師のほか、歯科医師、管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーなども参加しました。



続いて、2組のママに子どもを産んだときからこれまでのことを体験談としてお話していただきました。子育てで忙しい中、こんなに立派なスライドを作って発表してくださいました。



1組目のママは『24週で生まれたから何かしらはあると思っていたけど、実際に頭のお話をされた時はショックだった。退院してからは1つできるようになるとこれもできるようになってほしい。どんどん欲が出てしまう（お話より抜粋）。』と、その時の思いを振り返ってお話してくださいました。



2組目のママは、『ミルクが飲めなくて酸素と経管栄養で退院した。飲めないのはミルクが嫌いだけ。異常の可能性が高いと言われても絶対とは言われていない。悲観しても時間の無駄であり、この子の個性だとポジティブに考えることにした（お話より抜粋）。』と葛藤しながらも母親の強さを感じるお話をしてくれました。



参加したご家族、スタッフともに食い入るように講演を聞いているのが印象的で、涙なしでは聞けないようなお話でした。本当にありがとうございました。

後半の1時間は、テーブルごとに座談会を行いました。これまでのこと、今考えていること、これからのことなどをお茶菓子を食べながら自由にお話しました。その中で出たお話を少し紹介させていただきます。

- ・ 生まれてすぐはかわいいと思えなかった。ずっと自分を責めていた。
- ・ 面会ノートははじめの頃はなかなか振りかえられなかった。でも、今やっとみれて逆にもっと自分たちも撮っておけばよかったと感じている。
- ・ 超低出生体重児を生んだが、生きている我が子を見て幸せ。毎日好きが増えていく。はじめての育児に悩み、子供に必要なことをする普通の育児だったと今なら言える。
- ・ ほかのご家族との集まりにいけると安心する。いろんな年代の子と知り合える。
- ・ 父親が本当に何を考えているか心配になることもある。
- ・ 幼稚園に入ることが心配。他の子よりも小さいし、言葉も二語文で、他の子と比べてしまう。
- ・ 保育園に入れるのは心配だったが、実際に入れてみると1か月前との変化にびっくり。集団生活に入れてよかったと感じる。
- ・ あまり信じてなかったけど、小学校入学前に追いつくんだとびっくりしている。



出生時からを振り返って、当時は言えなかった思いや、今だからこそ考えること、今悩んでいることなど、参加したご家族が共感されている内容が多くありました。

特に印象的だったのは、パパ同士の真剣なお話、今回は20組中7組のパパが参加してくれました。中には、パパからこの会に誘ってくれた方もいるとお聞きしました。

私たちスタッフも、ご家族同士のお話を伺い、改めて気づかされ、勉強になることが多くありました。少しでもニーズに添えるよう、今後の支援につなげていこうと思っています。そして何よりも成長した子どもたちの姿を見たことが何よりうれしかったとの声がたくさん聞かれました。

子どもたちの様子はこちら

同窓会最後は、全体の記念写真をとって終了です。あっという間の2時間でまだまだ時間が足りないように感じました。参加してくれたご家族は20組（お子様28名、ご家族29名）、病院スタッフ40名、学生ボランティア12名でした。



参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。